
横顔をプレゼント

愛田雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

横顔をプレゼント

【Z-ONE】

N1312C

【作者名】

愛田雅

【あらすじ】

いつも悲しい顔で校庭を見ているあなたにあなたの横顔をプレゼント。

あなたの横顔は、どこか寂しい。

同じクラスの一番後ろの窓際の席で、いつも校庭を頬杖をつきながら見ている。

友達と休み時間に他愛もない会話をしながらも、あなたの横顔が寂しくて仕方がなかった。

あなたとは、都築祐司。

「都築君」と心の中で言つてしまつと、顔が赤くなりそうだから、何時の間にか「あなた」と心の中で表現するようになった。

窓を開け、汚れかかった白いカーテンも開けて、あなたはいつも校庭を見ている。

私は、横目でちらちらとその様子を盗み見る。

どうして、そんなに悲しい顔をしているの？

どうして、そんなに悲しい風を作るの？

心の中で私は尋ねる。

夕立に遭い、靴下がぐつしょりとぬれた日。

脱衣所で靴下を脱ぎながら、あなたの顔を思い浮かべた。

今日も悲しそうな表情で、休み時間に校庭を見ていた。

あなたにだって、友達がいないわけじゃない。

前の席には友達がいて、一応は話の輪に入っているはずなのに、あなたはなぜか一人物悲しい表情を毎日浮かべている。

私は、どうだらう。

たくさんの友達に囲まれて、いつだって誰かが私の傍にいる。
いつも私は一人ぼっちじやない。

・・・・・はずなのに、どこか寂しい氣がするのはなぜだらう。

誰もいない自分の家。

どこからも音のしない私のマンション。

靴下を脱ぎ捨てる、脱衣所を出て、裸足で廊下をぺたぺたと音をさせながら歩き、自分の部屋に入つた。

すぐに制服から部屋着に着替えて、湿つた制服をハンガーにかけた。

机に向かい、引き出しからスケッチブックを取り出した。

絵を描くのが得意な私は、真っ白いページを広げると、鉛筆を手にした。

ゆっくりと目を瞑ると、あなたの寂しげな横顔を思い浮かべた。
鮮明に思い出せるあなたの横顔。

パツと目を開くと、あなたの横顔を描き始めた。

物悲しい雰囲気の横顔を描いていくと、その悲しさが私に伝わってくるような気がした。

私は、寂しいのだろうか。
自分では、よくわからない。

共働きで、両親ともに毎日帰りが遅い。
食事は、昼以外、平日は一人で食べている。

休日は、なるべく家族そろつて食べるようにしているけれど、たまに父がいなかつたり母がいなかつたり私がいなかつたり。

考え事をしていると、寂しいと悲鳴が聞こえそうなあなたの横顔の絵が出来上がった。

鉛筆だけで描いたせいか、モノクロのあなたはより一層寂しさを物語っている。

寂しそうな横顔・・・・・・つて、私は人のことが言えるのかな。

次の日、いつもより早めに学校に着いた。

薄暗い空の下にある校庭を、窓もカーテンも開けて、あなたは頬杖をついて見ている。

教室には、私とあなたしかいない。

まるで空気に溶けているかのように、あなたはぴくりとも動かさに頬杖をついたまままでいる。

「おはよー」

廊下側にある自分の席から、あなたに声をかける。

「ああ・・・・・・、おはよー」

氣だるそうな声で、あなたは少しだけ顔をこちらに動かして返事をしてくれた。

スケッチブックに書いたあなたの絵を鞄の中から取り出し、あなたの前に差し出した。

「あげる」

「え?」

怪訝な顔で、あなたは自分が書かれた絵に目を落とした。

「私、絵を描くのが好きだから。都築君の絵を描いてみたんだ。ど

う？似てるでしょ。」

「へえ、水野つて絵が得意なんだ。でも、何で俺の絵なんだ？」

「なんとなく・・・・・表情が、創作意欲をかきたてたんだ」

クスリとあなたが笑つた。

「俺の表情が？ そうなんだ。これ、もうつていいのか？」

「うん」

「ありがとう」

照れ笑いを浮かべると、あなたは私が描いた絵をまじまじと手にとつて眺めた。

私は自分の席に戻り、鞄の中のものを自分の机に入れた。

ようやく次のクラスメイトが教室に入つてくると、あなたは急いで

私が描いた絵を机の中にしまった。

たつたそれだけのことなのに、なぜか私はドキッとした。

その後に、安堵感が私の体を走りすぎた。

(後書き)

一気に書き上げた作品です。
人間の心のつながりをテーマに書いてみました。
読んだ方が、それに何かを感じ取つてもらえた良いなと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1312c/>

横顔をプレゼント

2010年10月10日06時53分発行